令和８年11月20日（金）

県下警察署長等会議

本　部　長　訓　示

警察署長各位におかれては、人的な資源が限られる中でもできる限りの現場活動を展開し、県下の治安を第一線で確保されているところであり、改めてその労苦に敬意を表します。

本日は、県下警察署長等会議に際し、警察本部長として考える、今後、我々が警察活動を推進する上での３つの重要なターゲットと、その活動を支える３つの重要な基盤について述べたいと思います。

第１　３つの主要なターゲット

（１）最も力を入れるべきターゲットは「**若年層・若者**」です。コロナ禍以降、少年非行、いじめ、家出、万引き、児童虐待、性的搾取、薬物乱用、闇バイト、暴走族等々、若年層に関連する統計数値は明確かつ急速に悪化の一途をたどっています。また、ＳＮＳの利用に起因する犯罪やトラブルのように、ひと昔前にはほとんど見られなかった種類の事案も数多く発生しています。

現場の肌感覚でも、ＳＮＳの世界に無防備にさらされている若者達に接し、「このままだとまずいぞ」と感じている方が多いのではないでしょうか。４週間前に着任したばかりの私が、各部の業務説明を聞いて最も危機感を抱いたのは、この若年層を取り巻く厳しい現状です。

県下の若年層は、これからの鹿児島の社会・経済を支える、かけがえのない「宝」であり、彼らが安全に安心して幼少期や青春を過ごせる環境を整備することは、我々の世代の重要な責務です。ここで我々が踏ん張り、関係機関とも連携しながら、粘り強く取組を進めていかないと、鹿児島県や日本の将来に大きな禍根を残すことになります。実際、我々警察は、数ある公的機関の中でも、若者の人生を良い方向に変えるだけの力を持ち合わせている主要な役所の一つです。各位におかれては、鹿児島の未来のためにも、若者が道を外して非行や犯罪、テロに走ったり、若者が犯罪や事故の被害に遭ったりすることのないよう、それぞれの管轄区域や担当分野において対策を強化されたいのであります。

（２）もう一方のターゲットは「**高齢者**」です。これまで鹿児島

を支えてきたレジェンド世代が、人生の終盤で犯罪や事故に巻き込まれたり、逆に犯罪や事故を起こしてしまったりすることほど悲しいことはありません。高齢者を孤立させてしまうことは、道義的にはもちろんのこと、鹿児島の伝統文化、例えば年長者を敬う郷中教育や奄美群島の互助精神とも全く相容れません。

各位にあっては、高齢者が安全に安心して過ごせる鹿児島を作っていくという使命を常に念頭におかれたいのであります。とりわけ、匿名流動型犯罪グループによる卑劣な犯行から高齢者を守ること、高齢者が悲惨な交通事故の当事者とならないようにすることは至上命題です。

そして、我々もいつかは高齢者になります。高齢者を主要なターゲットにするということは、ゆくゆくは自らを含めた全ての世代に寄与するものであるという思いで対策を強化していきましょう。

（３）３つ目のターゲットは「**県外からやって来る脅威**」です。施策の対象世代というよりも、対処すべき脅威の質に着目したものです。今や、闇バイトに応募した関東地方の者らがわざわざ鹿児島までやってきて犯行をする時代です。また、単独で要人に

接近してテロを実行しようとする者は、その執着心から県境を容易に越える傾向が知られています。サイバー犯罪・サイバー攻撃の類は、正に県外からやって来る脅威の典型でしょう。

治安課題の専門化・高度化・広域化・国際化が進む中、県外からやってくる脅威の多くは、鹿児島県警察が単独で対処するには難しい課題となっています。そのため、これらの脅威に対処する上でのキーワードは「**連携**」です。我々鹿児島県警察部内での連携、すなわち警察本部と警察署の連携、部門間の連携は当然のこととして、他の都道府県警察との共同対処、県内の関係機関・団体との協力、官民での連携などを今まで以上に進めなければなりません。各位にあっては、連携の主たる当事者としての自覚を持ち、これまでの協力関係の維持・発展とともに、新たな連携体制の構築に意を用いられたいのであります。

第２　３つの重要な基盤

（１）我々の活動基盤で不可欠なものは、県民・国民からの「**信頼**」です。“古より皆死有り、民信無くば立たず”―政治の在り方について問われた孔子は、国にとって食糧や軍備よりも民衆からの信頼こそが最も重要であると説きました。鹿児島県警察

にとって、**信頼回復**は引き続き最重要のテーマであり、現在取り組んでいる再発防止対策を着実に進め、高い使命感と厳正な規律を保持する職場環境の構築に努められたいのであります。

（２）この再発防止対策はちょうど１年前に見直し・改善がなされ、「**前向きに業務に取り組むことができる環境**の整備」として、**業務の合理化・効率化**の取組の強化などを進めていくこととされました。各位にあっては、“現在の取組はいつか陳腐化する”、“自ら変化しないこと自体がリスクである”との認識の下、安易な前例踏襲を廃し、時代の変化や技術の進歩に対応した組織運営を心掛け、「**合理的・効率的な勤務環境**」を整備されたいのであります。

　また、その前提として、基本的すぎることではありますが、今一度、勤務環境がきちんと**整理整頓**されているかどうかについても、自らの目で点検をしてください。私も、警察署の初度巡視の際に確認したいと思います。

（３）３つ目の重要な基盤は、**職員同士・部内外のコミュニケーション**です。着任時にも申し述べましたが、経験上、マネジメント上の問題の裏にはたいていコミュニケーション不足があるの

ではないかと感じています。逆に言うと、コミュニケーションがしっかりなされれば、たいていの問題は解決できるのだとも考えます。ぜひ所属長の皆さんが主導してコミュニケーションを活性化させてください。私自身も、部内外との積極的なコミュニケーションに取り組んでまいります。

以上、警察活動を推進する上での３つの重要なターゲットと、その活動を支える３つの重要な基盤について、私の考えるところを申し述べました。各論については各部長の指示をよく聞いて対応してもらえればと思います。